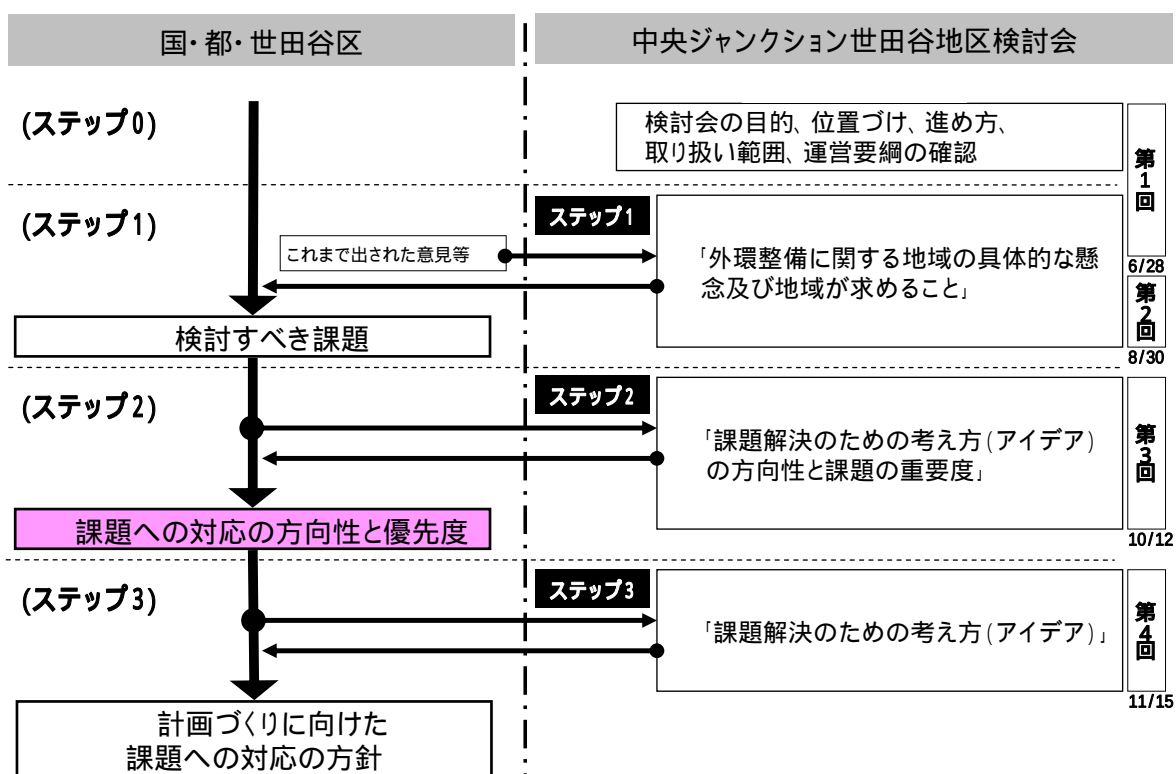


ステップ 2-2

課題への対応の方向性と優先度

- ・ 外環計画が具体化した際の中央ジャンクション周辺地区における課題に対する対応の基本的な方向性と、課題対応の優先度(検討や対応をどの段階で実施するか)を整理したものです。





中央ジャンクション世田谷地区検討会

課題への対応の方向性と優先度

【本資料について】

- ・本資料は、外環計画が具体化した際の中央ジャンクション周辺地域における課題に対する対応の基本的な方向性と、課題対応の優先度(検討や対応をどの段階で実施するか)を整理したものです。
- ・中央ジャンクション世田谷地区検討会でステップ2の成果『課題解決のための考え方(アイデア)の方向性と課題の重要度』を受けて、主催者としての現時点での認識を示したものです。

中央ジャンクション世田谷地区検討会 主催者

(国土交通省・東京都・世田谷区)

中央ジャンクション世田谷地区検討会

課題への対応の方向性と優先度 目次

本資料各項目の構成について

1. 計画	1
(1) トンネル部	
(2) ジャンクション部	
(3) 環境施設帯	
(4) 換気所	
(5) 周辺部	
2. 調査	11
3. 工事	12
4. 管理	13
5. その他	15
(1) 用地・補償	
(2) 検討の進め方など	

本資料各項の構成について

本資料の各項目は、次の①～③の部分から構成しています。

1. 計画

(1) トンネル部

【課題への対応の方向性】

- ・最新技術の導入による排出ガス対策の実施と管理
- ・トンネル内への浸水を防止する為の対策の実施
- ・環境影響への対策、災害時の対応等に関する地域住民への十分な情報提供の実施

・・・①

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ジェットファンにも、最新技術の導入、システム機能の向上により、できる限り排出ガスを処理する対策を講じるとともに、それらについて適切に管理する。(D)
- ・冠水に対する十分な排水対策を行うことで、災害時の危険性を低減する対策を講じる。(D)
- ・トンネルの耐震基準など大深度構造物の耐震性に関する情報を公開し、懸念が解消できるようにする。(E)
- ・地下水保全対策の計画検討を行うことで、地下水の分断を回避する対策を講じる。(E)

・・・②

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念

【安全・安心】

- ・集中豪雨により、トンネル内の浸水や周辺地域の冠水被害が発生するのではないかと懸念
- ・地震発生時の耐震性に関する懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

・・・③

①課題への対応の方向性

地区検討会のステップ1の主催者側の成果『検討すべき課題』(③)及びステップ2の検討会メンバーの成果『課題解決のための考え方（アイデア）の方向性と課題の重要度(案)』(②)を踏まえて、計画の要素（対応の段階及び構造の位置）毎に、課題対応の基本的な方向性を主催者として整理したもの。

②課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

地区検討会のステップ2の成果『課題解決のための考え方（アイデア）の方向性と課題の重要度(案)』から、計画の要素（対応の段階及び構造の位置）ごとに、各グループの「課題解決のための考え方（アイデア）の方向性」を引用したもの。末尾に（ ）でグループ名を付記しています。

③関連する「検討すべき課題」

各計画の要素（対応の段階及び構造の位置）ごとに、関連する「検討すべき課題」を列記したもの。

1. 計画

(1) トンネル部

【課題への対応の方向性】

- ・ 最新技術の導入による排出ガス対策の実施と管理
- ・ トンネル内への浸水を防止する為の対策の実施
- ・ 環境影響への対策、災害時の対応等に関する地域住民への十分な情報提供の実施

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ ジェットファンにも、最新技術の導入、システム機能の向上により、できる限り排出ガスを処理する対策を講じるとともに、それらについて適切に管理する。(D)
- ・ 冠水に対する十分な排水対策を行うことで、災害時の危険性を低減する対策を講じる。(D)
- ・ トンネルの耐震基準など大深度構造物の耐震性に関する情報を公開し、懸念が解消できるようにする。(E)
- ・ 地下水保全対策の計画検討を行うことで、地下水の分断を回避する対策を講じる。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・ 地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念

【安全・安心】

- ・ 集中豪雨により、トンネル内の浸水や周辺地域の冠水被害が発生するのではないかの懸念
- ・ 地震発生時の耐震性に関する懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

(2) ジャンクション部

【課題への対応の方向性】

- ・生活道路の整備による移動の利便性の確保など、地域への影響が極力小さくなるような検討の実施
- ・外環利用者の利便性や安全性に配慮した検討の実施
- ・ジャンクションからの大気質、騒音、振動、低周波音、地盤沈下等の生活環境への影響の低減への対策の実施
- ・地域への貢献を視野に入れたジャンクション上部空間の有効活用策の実施
- ・環境影響への対策、災害時の対応等に関する地域住民への十分な情報提供の実施

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・JCT 部分を高架構造にすることなどにより、外環と中央自動車道による地域分断の最小限化を最優先として検討する。(A)
- ・中央 J C T の構造を再検討することで、都市計画道路の道路線形の再検討、周辺道路の現状機能の維持、安全性の向上、上部空間の有効利用を図る。(A)
- ・東八 IC の出入口から下り勾配を付け、橋掛けによる北野地区の地域分断を最小限にすることを検討する。(A)
- ・検討にあたっては、立面図や蓋かけ可能な範囲を示すなどの情報提供が必要である。(A)
- ・ジャンクション部の蓋かけなど、中央 JCT からの排出ガス流出や騒音抑制などの対策を検討・実施することにより、環境への影響を最大限低減させる。(B)
- ・高架下の低周波音、ジャンクションの利用台数予測による影響の上乗せなどを追加調査し、環境への影響を把握するとともに、その結果を公表する。(C)
- ・練馬方面への U ターン方式の撤回や中央自動車道脇への出入口の新設などジャンクションの複雑な動線を見直し、安全性の向上や環境影響の軽減を図る。(C)
- ・できる限り蓋がけをし、排出ガスの流れを防ぐ（料金所、ランプ部分）ことや供用後の排出ガスに関する定期的な測定を行うことで、排出ガスの影響を把握・低減する。(D)
- ・蓋がけをした空間へのヘリポートの整備やコミュニティ空間を設けることにより、防災や救急に役立つよう、地域や社会のため、最大限有効利用する。(D)
- ・既存インターを有効利用（高井戸 IC のフルインター化）などにより、中央 JCT の交通量を軽減し、交通事故対策を実施する。(D)
- ・ソーラーパネルを利用した発電や、振動、排出ガスを利用（悪い要素を逆転の発想で有効利用）した発電を行い、地域などで利用する。(D)
- ・東八 IC からの進入路の工夫により、地上部の連絡できる範囲をできる限り広げる。(D)
- ・スマート IC の導入やランプ構造の再検討などにより、ジャンクション部の渋滞発生回避の対策を講じる。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念
- ・地域の緑が減少するのではないかと懸念

【まちづくり】

- ・ジャンクション部利用の工夫などにより外環整備によって利点が享受できる計画となることへの期待
- ・地域のコミュニティが分断するのではないかと懸念
- ・吉祥寺通りが分断され、歩行者、バス等の移動の利便性が低下するのではないかと懸念
- ・通学路が分断されるのではないかと懸念
- ・外環整備による、インターチェンジ・ジャンクション周辺部における土地利用の変化についての懸念

【安全・安心】

- ・通学路や生活道路の交通量が増え、交通事故が増加するなど交通の安全性が低下するのではないかと懸念
- ・集中豪雨により、トンネル内の浸水や周辺地域の冠水被害が発生するのではないかと懸念
- ・ジャンクション・インターチェンジにおける交通事故の発生に関しての懸念
- ・災害発生時の避難路が確保できないのではないかと懸念
- ・地震発生時の耐震性に関する懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(3) 環境施設帯

【課題への対応の方向性】

- ・環境施設帯を活用した生活道路、通学路、側道等の代替機能の確保
- ・周辺既存の緑とのネットワークに配慮した緑豊かで生態系に配慮した緑地空間の創出
- ・利便性、防災性、資産価値など向上に配慮した質の高い地域交流の場としての活用
- ・継続的に良好な空間として適切な維持管理

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・環境施設帯は、緑の整備だけでなく側道の整備など、人の移動性向上のための有効活用を図る。(A)
- ・地域の防災性、地域の利便性を向上、資産価値を維持させるための環境施設帯とし、遊歩道や防災広場、安全な側道（6 m以上）の整備などにより、地域の交流を生み出す。(B)
- ・環境施設帯を利用して設置する側道は6 m以上とし、通学路の安全が確保できるように歩道を設ける。(B)
- ・環境施設帯の区域拡大や高木の並木づくり、生態系の分断への配慮など、区のみどり率を向上させる質の高い緑地にする。(C)
- ・掘割部の蓋かけで有効に利用できる面積を増やして、屋内型の複合スポーツ施設の建設や、ジャンクションなどの高架下を利用した広域的な防災施設を整備する。(C)
- ・排出ガス、地球温暖化、ヒートアイランドなどの環境問題に対して、効果的な緑化をはかる（樹種、植え方の工夫をはかる）。そうしたことを行いながら、外環周辺の既存の緑とのつながり（グリーンネットワーク）をつくりだし、地域の潤いある景観、生態系など良好な環境をつくる。(D)
- ・木枯れの状態を観察できるような緑地整備を行うことで、環境汚染の指標として活用する。(D)
- ・スポーツ広場の整備や自転車道や遊歩道整備、側道の設置などにより、地域の資産となる地域交流の場として有効活用する。(E)
- ・整備後も地域で利用・管理し良好な環境を維持していくため、管理主体の明確化や里親制度のような管理に関するルールを構築する。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・地域の緑が減少するのではないかと懸念

【まちづくり】

- ・環境施設帯の有効活用への期待
- ・通学路が分断されるのではないかと懸念

【安全・安心】

- ・災害発生時の避難路が確保できないのではないかと懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(4) 換気所

【課題への対応の方向性】

- ・ 最新技術の換気所への活用の検討
- ・ 換気所からの騒音、振動、低周波音などの生活環境への影響の低減
- ・ 火災や地震などの災害時等や故障時等を考慮した適切な施設運用と維持管理
- ・ 廃熱エネルギー活用や太陽光発電などエネルギーの有効活用による地域への利点の還元策の検討
- ・ 換気所の検討過程における地域住民への十分な情報提供

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 完全に無害化できる機能を持った換気装置の導入や換気所の高さを再検討することで、環境への影響を軽減させる。(A)
- ・ 三鷹都市計画道路 3.4.11 を直線にするために換気所の位置を移動する。(A)
- ・ 脱硝機能など排出ガスのフィルター機能があり、事故が発生したときも適切に機能する換気所とし、地域の生活への影響を最小限にする。(B)
- ・ 廃熱エネルギー活用や太陽光発電などの技術を研究・採用するなど、地域への利益還元や換気所の安全対策を図る。(B)
- ・ 脱硝装置が装備されず、高さによる影響の差が明らかでないのであれば、他の地域と同じ 30 m にする。(B)
- ・ 換気所の高さを周辺の 7 階建て程度の建物よりも高くし、大気質に関する影響を低減させる。(C)
- ・ 換気所の高さ別に換気性能や風きり音などの影響評価の比較やその検討データの開示・提供を行う。(C)
- ・ 大気質に関わる実態のデータ（喘息患者数）を詳しく把握するとともに、測定地点の細かい設定と詳しい調査と情報の開示および排出ガス対策の最新技術（脱塵・脱硝技術など）の導入を図ることで、排出ガス対策をできる限り強化する。(D)
- ・ 排出ガスを利用した発電を行い、地域などで利用する。(D)
- ・ 排出ガスによる周辺への影響をより一層低減するために、ジャンクション内での換気所の位置などについて再検討する。(D)
- ・ 排出ガスの影響を供用後も調査を実施し、データの収集解析を行い、情報開示する。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・ 換気所の高さや機能に関する懸念
- ・ 換気所から発生する騒音や振動、低周波音による影響についての懸念
- ・ 換気所の高さを抑えることにより、良好な景観が形成されることへの期待

【安全・安心】

- ・地震発生時の耐震性に関する懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(5) 周辺部

【課題への対応の方向性】

- ・ 周辺地域の都市計画道路の整備や生活道路の機能確保
- ・ 外環整備を併せた、周辺地域の安全性、利便性、渋滞緩和の向上
- ・ 周辺道路の交通量が増加した場合の適切な措置の実施
- ・ 周辺道路のネットワーク化に向けての検討
- ・ 地域コミュニティの分断の軽減やバスルートの維持・新設などによる移動の利便性の確保
- ・ 周辺地域の環境影響把握のための継続的な調査の実施

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 東八 IC から出た車が烏山通りや吉祥寺通りに入り込むので、これらの道路の拡幅や交差点の改良を行うとともに、東八道路への誘導を行うことで、烏山通りや吉祥寺通りの負担軽減や歩行者の安全性向上を図る。(A)
- ・ 外環の整備に併せた都市計画道路の整備や側道の整備を進めることで、吉祥寺通りの機能確保や自転車・歩行者のアクセス動線の確保、周辺交通混雑の緩和を図る。(A)
- ・ 補助 219 号線と烏山通り・中央道側道の交差点が危険なのでルート変更を行う。(A)
- ・ 補助 219 号線のルートの変更や大学周辺の区道廃止等により、日本女子体育大学の敷地分断への対応を図る。(A)
- ・ 生活道路は 6 メートル以上に拡幅することで、災害時の緊急車両の走行を可能とする。(A)
- ・ 工事時の車両交通計画の立案、情報提供などにより、工事中の生活環境の悪化や安全性の低下、渋滞の悪化等の対策を講じる。(A)
- ・ 交通量の増加に対応する都市計画道路や生活道路の通行機能の確保、IC の追加、周辺土地利用の維持のための側道の整備などにより、外環による影響を低減させるための整備を総合的に実施し、安全に住み続けられる地域環境を維持する。(B)
- ・ 周辺道路の先行整備や中央道への臨時出入り口の設置などにより、工事中の安全性や生活環境への影響低減を講じる。(B)
- ・ 吉祥寺通りは都市計画道路の見直しにより、ジャンクション用地などを經由して従来通りつなげるようにする。(C)
- ・ 吉祥寺通りや中央自動車道の側道、生活道路、災害時の避難経路、ガスパ等の地下埋設物など、分断の可能性のある全ての道路の計画案、交通量予測などを示す。(C)
- ・ 緑の広場や畑、雑木林、路地空間などのアメニティや住みやすさなどの視点を影響評価に追加して、環境が劣化しないようにする。(C)
- ・ 高源院の鴨池など、地域を代表する湧水への影響を追加調査する。(C)
- ・ 事前の影響評価の試算だけでなく、外環開通後に、影響評価の予測地点と同じ場所でモニタリングをし、予測値と実測値を検証する。(C)
- ・ 周辺の都市計画道路の整備に合わせて、街路樹や電線地中化などの歩行空間の整備や照明などの治安対策を行う。(C)

- ・外環の整備に合わせた都市計画道路の整備、周辺の主要駅を循環するバス路線の見直しや維持など吉祥寺通りや旧甲州街道を利用した公共交通網の機能確保や地域分断の解消を図る。(C)
- ・「もぐら公園」などの既存の公園の代替機能を確保する。(C)
- ・高井戸 IC のフルインター化、中央自動車道高架下空間を活用した道路拡幅や側道の拡幅などを行い、地域の交通ネットワークを改善・充実させて交通の流れをよくすることで、大気質、騒音、振動、交通安全などの問題解消を図る。(D)
- ・周辺の都市計画道路の機能拡充、ルート再検討、交通規制などにより、周辺地域の渋滞緩和、利便性の確保、安全性の向上、環境影響の軽減などの対策を講じる。(D)
- ・中央自動車道高井戸 IC に入り口を整備することで、東八 IC 周辺の渋滞緩和を図る。(D)
- ・福祉施設やマンションなどの新たな立地動向や土地利用に留意し、生活環境に配慮しながら地域道路網の充実を図る。(D)
- ・吉祥寺通りの現在の利便性を残すため、都市計画道路三鷹 3・4・11 との連絡の工夫を図る。(D)
- ・外環本線と周辺道路の整備計画とスケジュールを適切に整合させ、道路網を充実させる。(D)
- ・周辺の計画道路と本線との整合性、交通規制についての情報を事前に公表する。(D)
- ・都市計画道路の整備や烏山通りの改良、IC の追加などを外環の整備に先立って行うことで、予想される東八 IC 周辺の渋滞問題や安全性の低下への対策を講じる。(E)
- ・東八道路出口の左折禁止や中央自動車道の料金施策など、外環供用後のソフトな対策により、予想される東八 IC 周辺の渋滞問題や安全性の低下への対策を講じる。(E)
- ・周辺地域の道路網計画や都市計画道路の計画の見直しなど、外環の整備に併せて検討を行う。(E)
- ・バス路線の維持や充実した道路ネットワークの構築など、誰もが行きたいところに無理なく移動できるよう、周辺地域の交通利便性の向上を図る。(E)
- ・地下水脈の調査と結果の開示、緑地の復元、地下水の保全、豪雨時の浸水など、自然環境に関する各種対策を、外環の整備と併せて実施する。(E)
- ・工事用車両の走行経路規制や走行禁止区間設定などを行うことで、工事期間中の地域住民の安全性の確保や生活環境の悪化防止策を講じる。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・生活道路に通り抜け車両などの交通量が増え、住宅街での渋滞が発生するのではないかとの懸念
- ・周辺道路の整備により、周辺地域の移動の利便性が向上することへの期待
- ・烏山通りや東八道路インターチェンジ周辺の道路の混雑についての懸念
- ・外環や周辺道路の整備により、周辺道路の混雑が緩和することへの期待

【環境】

- ・ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念

【まちづくり】

- ・地域のコミュニティが分断するのではないかと懸念
- ・吉祥寺通りが分断され、歩行者、バス等の移動の利便性が低下するのではないかと懸念
- ・通学路が分断されるのではないかと懸念
- ・外環整備による、インターチェンジ・ジャンクション周辺部における土地利用の変化についての懸念

【安全・安心】

- ・通学路や生活道路の交通量が増え、交通事故が増加するなど交通の安全性が低下するのではないかと懸念
- ・都市計画道路の整備等により、安全な歩行空間が確保されることへの期待
- ・集中豪雨により、トンネル内の浸水や周辺地域の冠水被害が発生するのではないかと懸念
- ・災害発生時の避難路が確保できないのではないかと懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

2. 調査

【課題への対応の方向性】

- ・大気質、地下水・湧水、生態系等の影響把握のための継続的な調査の実施、地域住民への情報提供

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・高源院の鴨池など、地域を代表する湧水への影響を追加調査する。(C)（再掲）
- ・高架下の低周波音、ジャンクションの利用台数予測による影響の上乗せなどを追加調査し、環境への影響を把握するとともに、その結果を公表する。(C)（再掲）
- ・換気所の高さ別に換気性能や風きり音などの影響評価の比較やその討データの開示・提供を行う。(C)（再掲）
- ・大気質に関わる実態のデータ（喘息患者数）を詳しく把握するとともに、測定地点の細かい設定と詳しい調査と情報の開示および排出ガス対策の最新技術（脱塵・脱硝技術など）の導入を図ることで、排出ガス対策をできる限り強化する。(D)（再掲）
- ・大気質の現状調査結果や、今後の予測データなど、住民の不安が解消されるよう、分かりやすく、十分な情報提供を行う。(D)
- ・法律の基準に従うだけでなく排出ガスなどによる地域への影響を低減する対策を講じる。(D)
- ・地下水脈の調査と結果の開示、緑地の復元、地下水の保全、豪雨時の浸水など、自然環境に関する各種対策を、外環の整備と併せて実施する。(E)（再掲）
- ・近年の集中豪雨に対応できるよう基準を見直し、外環整備により地域の浸水被害が起きないようにする。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・換気所の高さや機能に関する懸念
- ・換気所から発生する騒音や振動、低周波音による影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念
- ・地域の緑が減少するのではないかと懸念
- ・換気所の高さを抑えることにより、良好な景観が形成されることへの期待

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

3. 工事

【課題への対応の方向性】

- ・ 工事にとまなう大気質や騒音・振動、粉じんなどの生活環境、地下水や土壌などの自然環境への影響を低減させる対策の実施
- ・ 工事車両の流入により懸念される生活環境や安全性の確保、交通の混雑の影響の低減させる対策の実施
- ・ 工事の期間や工事車両に関する計画など工事内容等の十分な情報提供とルール確立

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 工事時の車両交通計画の立案、情報提供などにより、工事中の生活環境の悪化や安全性の低下、渋滞の悪化等の対策を講じる。(A)（再掲）
- ・ 周辺道路の先行整備や中央道への臨時出入口の設置などにより、工事中の安全性や生活環境への影響低減を講じる。(B)（再掲）
- ・ 工事の事前協議の取り決めの内容を守るように徹底することで、工事中の環境悪化の防止に努める。(C)
- ・ 中央自動車道に工事車両専用の出入口を新設することで、周辺地域の交通渋滞が発生しないようにする。(C)
- ・ 開削工事で中央自動車道の基礎に影響が出ないようにする。(C)
- ・ 工事車両の交通計画を都条例で規制するなどにより、工事中の地域の安全性の確保を図る。(C)
- ・ 工事用車両の走行経路規制や走行禁止区間設定などを行うことで、工事期間中の地域住民の安全性の確保や生活環境の悪化防止策を講じる。(E)（再掲）

■関連する「検討すべき課題」

【工事中】

- ・ 工事車両が走行することによる周辺地域への影響についての懸念
- ・ 工事に伴う大気質、騒音・振動、粉塵等による環境への影響に関する懸念
- ・ 工事中における事故の発生や交通の安全性の低下への懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

4. 管理

【課題への対応の方向性】

- ・ 利用者に適切な情報を提供することなどにより、周辺道路の交通混雑の発生を防止する方策の検討
- ・ 大気質、地下水、などの適切なモニタリングの実施およびモニタリング結果に基づく適切な対応
- ・ 環境等への影響が確認された場合の適切な措置
- ・ 最新技術の活用および適切な維持管理
- ・ 環境緑地帯を継続的に良好な空間とするための適切な維持管理

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 高速道路通行料金の適切な設定、高速道路利用者への適切な情報提供を行うなど、周辺道路の混雑緩和の対策を講じる。(A)
- ・ 事前の影響評価の試算だけでなく、外環開通後に、影響評価の予測地点と同じ場所でモニタリングをし、予測値と実測値を検証する。(C)（再掲）
- ・ 周辺の都市計画道路の整備に合わせて、街路樹や電線地中化などの歩行空間の整備や照明などの治安対策を行う。(C)（再掲）
- ・ ジェットファンにも、最新技術の導入、システム機能の向上により、できる限り排出ガスを処理する対策を講じるとともに、それらについて適切に管理する。(D)（再掲）
- ・ 建設時だけでなく、供用後も 10 年、20 年・・・と、できる限り長期間、定期的に地下水や大気など環境全般についてチェックを入れて影響調査を行う。その調査にあたっては、現地の状況に詳しい専門家の意見を聞く。(D)
- ・ ソーラーパネルを利用した発電や、振動、排出ガスを利用（悪い要素を逆転の発想で有効利用）した発電を行い、地域などで利用する。(D)（再掲）
- ・ 木枯れの状態を観察できるような緑地整備を行うことで、環境汚染の指標として活用する。(D)（再掲）
- ・ 排出ガスを利用した発電を行い、地域などで利用する。(D)（再掲）
- ・ できる限り蓋がけをし、排出ガスの流れを防ぐ（料金所、ランプ部分）ことや供用後の排出ガスに関する定期的な測定を行うことで、排出ガスの影響を把握・低減する。(D)（再掲）
- ・ 外環と中央自動車道の管理に関する計画を柔軟に立案してもらいたい。(D)
- ・ 東八道路出口の左折禁止や中央自動車道の料金施策など、外環供用後のソフトな対策により、予想される東八 IC 周辺の渋滞問題や安全性の低下への対策を講じる。(E)（再掲）
- ・ 排出ガスの影響を供用後も調査を実施し、データの収集解析を行い、情報開示する。(E)（再掲）
- ・ 整備後も地域で利用・管理し良好な環境を維持していくため、管理主体の明確化や里親制度のような管理に関するルールを構築する。(E)（再掲）

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・外環や周辺道路の整備により、周辺道路の混雑が緩和することへの期待

【環境】

- ・ジャンクション・インターチェンジや換気所、周辺道路などから発生する排出ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・ジャンクション部利用の工夫などにより外環整備によって利点が享受できる計画となることへの期待

5. その他

(1) 用地・補償

【課題への対応の方向性】

- ・用地等の補償に関し、地権者のニーズに応じた丁寧な対応と十分な情報提供

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・用地補償は地元地権者の意向や代替地の確保、買収後の納税などについても考慮した対応をおこなう。(A)
- ・用地補償の範囲や代替地の提示など、外環整備にともなう用地補償の影響を低減する。(B)
- ・都市計画道路補助 219 号線沿線の大学機能への影響を低減するため、ルートの変更あるいは、隣接代替地を補償する。(B)
- ・地価の低下が予想される外環の整備周辺地域の第一種低層住居専用地域の用途地域の見直しを行い、建ぺい率および容積率を上げる。(B)
- ・用地買収に伴う引越などで近所づきあいがなくならないようにする。(C)
- ・都市計画道路整備に伴う用地買収で不整形となる敷地の整形化や、不整形のまま残る敷地は周辺住民の協力を得て、緑化を進める。(C)
- ・日本女子体育大学など影響の大きい地権者に対して、用地補償などの見通しを早期に示す。(C)
- ・これまで出されてきた課題の解決策を実現させていくためには、地権者との十分な合意形成をはかることが重要かつ基本であることを認識して事業に取り組んでいく。(D)

■関連する「検討すべき課題」

【用地・補償】

- ・移転先の確保や補償などへの懸念
- ・地権者への用地補償についての分かりやすい説明や丁寧な対応がなされるのかとの懸念

(2) 検討の進め方など

【課題への対応の方向性】

- ・ 最新技術の活用を検討
- ・ これまで頂いた御意見などを踏まえた計画検討の実施
- ・ 検討会終了後も必要に応じて意見を聴く方法を検討
- ・ 大気質、地下水などのモニタリングの実施、工事スケジュールの情報提供などにより住民の不安の払拭に配慮
- ・ 整備にともなう問題が発生した時の、行政側の対応体制の確立

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 高速道路通行料金の適切な設定、高速道路利用者への適切な情報提供を行うなど、周辺道路の混雑緩和の対策を講じる。(A)（再掲）
- ・ 中央高速道路の騒音対策や地域の雨水排水対策を行うことで、中央ジャンクション整備による環境への影響を低減させ、地域に受け入れられるように事業を検討する。(B)
- ・ より具体的な対応策や事業進捗に合わせた適切な情報提供を行う。(B)
- ・ 最近になって計画地内に住み始めた人も含めて計画内容を周知するとともに測量をして計画線を確定させる。(C)
- ・ 中央 JCT から環八道路の問題を考えるために、北烏山1～9丁目の住民で話し合いの場を設ける。(C)
- ・ 中央自動車道の渋滞を解消させる。(C)
- ・ 工事車両の交通計画を都条例で規制するなどにより、工事中の地域の安全性の確保を図る。(C)（再掲）
- ・ 大気質の現状調査結果や、今後の予測データなど、住民の不安が解消されるよう、分かりやすく、十分な情報提供を行う。(D)（再掲）
- ・ 法律の基準に従うだけでなく排出ガスなどによる地域への影響を低減する対策を講じる。(D)（再掲）
- ・ これまで出されてきた課題の解決策を実現させていくためには、地権者との十分な合意形成をはかることが重要かつ基本であることを認識して事業に取り組んでいく。(D)（再掲）
- ・ 計画要素すべてのアイデアのイメージをわかりやすくし、より効果的な検討が可能となるよう、例えばジャンクション部の蓋がけする部分等の図面や情報の住民への提供や、CGなどのシミュレーションを行う。(D)
- ・ 外環整備に関わる課題は様々で多いが、地域のため、社会のため、外環整備が大きなメリット（社会貢献度の高い付加価値）を生み出す。(D)
- ・ 調査や計画の検討の経緯や内容の途中チェックや確認に住民が継続して関わられるように検討を進めるとともに、その経緯や内容をわかりやすく公表する。(D)
- ・ 住民の意見を聞くだけでなく、対応の是非、検討の是非も含めどのように反映したのかを明確にし、どの段階でも住民の進め方への不信、不満を払拭する。(E)
- ・ 行政は工事期間などのスケジュールを予め十分周知し、迷惑を被る住民の不安や不満

を多少でも解消する。(E)

- ・行政は何か問題が起きた時に、早い段階からすぐ対応する専用窓口を設け、住民の困りごとを解消する。(E)
- ・行政は検討会終了後も住民との情報共有の場、意見交換の場を設け、一方的な情報開示・提供を避ける。(E)
- ・行政は地域のメリットを提示し、住民が納得した上で計画を進める。(E)
- ・近年の集中豪雨に対応できるよう基準を見直し、外環整備により地域の浸水被害が起きないようにする。(E)（再掲）

■関連する「検討すべき課題」

【計画検討の進め方】

- ・外環の整備に伴う、経済効果増大への期待
- ・地区検討会での意見が計画に反映されないのではないかと懸念
- ・地域住民への十分な情報提供への期待